

レタス移植時に株元へ粒状肥料を施肥する装置

研究課題名

大規模経営に対応する露地野菜栽培省力機械化技術の開発（平成23年～25年度）

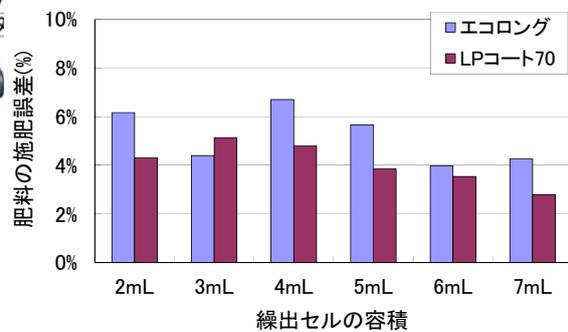
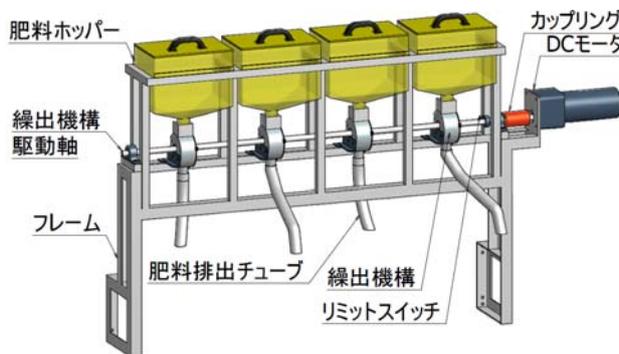
[研究のねらい]

本県の冬レタス栽培では、手作業による収穫に多大な労力を要していることから、機械収穫による省力化が求められていました。そこで、ばらつきの大きい成育を揃え、**一斉収穫を可能にする技術**の1つとして、**レタス移植時同時植穴施肥装置**を開発しました。

本装置は、少量の粒状肥料を高精度で施肥することができるうえに、県下に広く普及しているレタス移植機に装着することができるため、導入コストも少なく済みます。

今後、作業能率の改善等、更なる改良を加えたのち、現地への普及を図っていきます。

[研究の成果]



① 施肥装置は市販の半自動移植機に簡単に取り付けられます

② 少量の粒状肥料を誤差8%以内の高精度で施肥できました



セル苗下部に粒状肥料を投入



③ 作業時間は移植機単体に比べ2割増加しますが、機械の取扱性は容易かつ良好で、移植作業に支障しません

今後、作業能率の向上、植穴施肥の効果実証を行った上で、普及を進めていきます。

(経営・生産システム科 TEL0538-36-1551 e-mail: agrikeiei@pref.shizuoka.lg.jp)